

# 日本語学会第 167 回大会 プログラム

会 長 福井 直樹  
大会運営委員長 松浦 年男  
大会実行委員長 沈 力

期 日：2023 年 11 月 11 日（土）・12 日（日）

会 場：同志社大学京田辺キャンパス 夢告館（京都府京田辺市）

E-mail： lshen@mail.doshisha.ac.jp

※参加受付はオンライン（Peatix）もしくは現地にて行います。ただし、円滑な運営のため Peatix にて、事前受付・支払いへご協力願います。詳細は 8 ページをご覧ください。

※公開シンポジウムは大会後に録画を学会公式 YouTube チャンネルにて一般公開します。

※参加登録をされた方にのみ、口頭発表およびワークショップの録画およびポスターファイルを大会後の一定期間、公開します。

\*\*\*\*\*

## — 第 1 日（11 月 11 日） —

10:30-12:10	評議員会	MK101 教室
12:00-	受付	1 階ロビー
13:00-16:00	口頭発表（詳細は 2 頁にあります。）	1 階・3 階 A~D 会場
16:15-17:45	ポスター発表（詳細は 3-4 頁にあります。）	2 階 PA~PC 会場
17:45-18:45	参加者交流会（無料。詳細は 8 頁にあります。）	2 階 PA~PC 会場

## — 第 2 日（11 月 12 日） —

9:30-	受付	1 階ロビー
10:00-12:00	ワークショップ（詳細は 5 頁にあります。）	1 階・3 階 A~D 会場
12:40-13:00	会長挨拶，日本語学会学会賞授賞式	3 階 D 会場
13:00-16:00	公開シンポジウム「「語」とは何か?— その多面性を探る」 <司会・趣旨説明> 沈 力（同志社大学教授） <登壇者> 長屋 尚典（東京大学准教授） 「言語類型論から見た「語」の多面性」 沈 力（同志社大学教授） 「単音節言語から見た「語」の多面性」 由本 陽子（大阪大学名誉教授） 「語彙意味論から見た「語」の多面性」 窪菌 晴夫（国立国語研究所客員教授） 「プロソディーから見た「語」の多面性」	3 階 D 会場

■口頭発表（11月11日(土) 13:00-16:00)

	<b>A会場</b> MK101 教室 司会：[1-2] 白井 聡子, [3-5] 小野 智香子	<b>B会場</b> MK102 教室 司会：[1-2] 吉田 健二, [3-5] 矢野 雅貴
13:00-13:30	[A-1] 日高 晋介 カザフ語の <i>siyaqti</i> 「～ようである」は間接証拠性を表すのか	[B-1] 尹 熙洙 宮古語諸方言における前舌的な母音対応とその通時的由来
13:35-14:05	[A-2] Mjesd'alpa GÜR GD'YEM (Zitong PENG) ビジ語の分裂活格性	[B-2] 熊谷 学而 ニックネームの接尾辞において「かわいい」音韻素性はいくつ必要か?
14:05-14:20	(休憩)	(休憩)
14:20-14:50	[A-3] 大西 貴也 17世紀初頭のデンマーク語従属節における副詞句の配置とOV語順に関する調査—法律文書とレシピ本の比較から—	[B-3] 江村 玲, 磯野 真之介, 小泉 政利 日本語における目的語位置での主語の記憶の想起：視線計測からの考察
14:55-15:25	[A-4] 今西 一太 アミ語は本当に能格言語なのか	[B-4] 田中 陸, 深見 伶那, 梁井 一樹, 山田 絵美, 重藤 寛史, 太田 真理 事象関連磁場 M170 に対する形態素分割と項構造の影響：脳磁図による研究
15:30-16:00	[A-5] ファイズエワ ザリナ サマルカンド・タジク語の過去分詞について	[B-5] 加藤 志織, 程 レイ雅, 熊 可欣, 小泉 政利, 木山 幸子 カタカナ語の視覚的処理における迅速な音韻活性：閩下プライミングを用いた事象関連電位による検証

	<b>C会場</b> MK301 教室 司会：[1-2] 小町将之, [3-5] 有田 節子	<b>D会場</b> MK302 教室 司会：[1-2] 浅原 正幸, [3-5] 伊藤 さとみ
13:00-13:30	[C-1] 北田 伸一 時制節を越えて移動する主語の特性について	[D-1] 稲生 秀俊 類義の英語イディオムの構文と構成的形式の選択の動機—死に関連するイディオムを用いて—
13:35-14:05	[C-2] 川口 颯午 「太郎の」のような日本語の省略的NP再考	[D-2] 山田 彬堯 丁寧語の類型論
14:05-14:20	(休憩)	(休憩)
14:20-14:50	[C-3] 尾崎 慶, 安井美代子 日本語の動詞的名詞に対する副詞的修飾とイベント項	[D-3] 宋 歌, 木山 幸子 中国語母語話者の文末助詞の産出傾向—命題内容・性差・世代に応じた決定木分析—
14:55-15:25	[C-4] Yusuke YAGI Exhaustification and presupposition: Argument for weak negation	[D-4] Tingchi WEI Verb echo answer <i>u</i> in Taiwanese Southern Min
15:30-16:00	[C-5] Katsumasa ITO, Shun IHARA On semantics of two types of wh-exclamatives in Japanese: Interaction with predicates of personal taste	[D-5] 郭 楊 中国語の形容詞における原級と比較級の統語的区別

■ポスター発表（11月11日(土) 16:15-17:45）

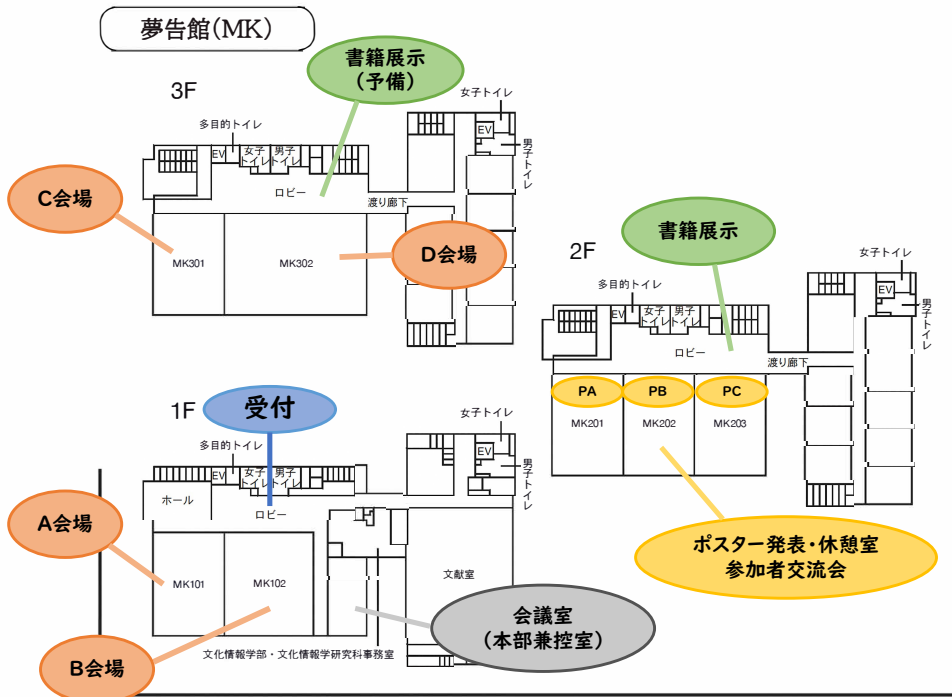
PA 会場 MK201 教室	[PA-1] 平井 偉在耶 複合語地名の分布から見る連濁促進・抑制条件の地域差
	[PA-2] 渡部 直也 ウクライナ語の狭母音化における中和現象
	[PA-3] 韓 旼池 現代日本語の自然会話における母音の非語彙的な延伸の位置と切れ続き：形容詞の強調の場合
	[PA-4] 山本 晃子 助数詞<つ>または<個>を用いて数えられている対象の特徴に関する分析—『日本語日常会話コーパス』を使用した実態調査—
	[PA-5] 加藤 恵梨 児童詩における学年別の特徴の分析
	[PA-6] 岳 昱澎, 小川 芳樹 中国語の「喝醉」構文の構造的多義性と逆行束縛
	[PA-7] Yelin GAO The scattered deletion in Chinese unaccusative split argument constructions
	[PA-8] 杉村 美奈 VN スル構文の口語表現における格助詞省略
	[PA-9] 末永 広大 <i>that</i> 痕跡効果の方言差について
	[PA-10] 宮元 創 ラベリングと外在化の関わり
	[PA-11] 周 杜海, チンガイリャン ティディム語における音韻語の認定とその基準— [N+V] 動詞句と [N+V] 複合語からの考察—
	[PA-12] Shiori IKAWA A descriptive study of an indiscriminative NPI, “indeterminate- <i>bari</i> ”, in Kagawa Japanese
	[PA-13] 七条 乙衣 3 層分裂 VP 構造に基づく動作主の表示—北海道方言ラサル構文を例として—
	[PA-14] 水野 庄吾 文接続の類型論—等位接続と副詞節の間に潜む一般性の解明を目指して—
PB 会場 MK202 教室	[PB-1] 菱山 湧人 チュヴァン語における部分構造：格標示と数の一致
	[PB-2] 中谷 健太郎 テシマウは本当に完了のアスペクト形式なのか
	[PB-3] 松本 曜, 氏家 啓吾 比較基準を表すカラ格についての一考察
	[PB-4] リスマ リスムラティ 日常会話コーパスにおける文末表現「～って」の使い分けと音調について—家族関係会話の事例を中心に—
	[PB-5] 有賀 照道, 広瀬 友紀 ラップで韻を踏む語におけるアクセントの効果の実験的検討
	[PB-6] 網谷 晃樹 トルコ語の伝聞の接語=(y)mlş が持つ時制について
	[PB-7] 角出 凱紀 AUTHOR FOR WORKS 再考
	[PB-8] 菅谷 友亮 事態における参加者の認知的際立ちと文処理のメカニズム—視覚世界パラダイムによる検証

	[PB-9] 内堀 朝子, 上田 由紀子 日本手話 (愛媛方言) において述語を形成する主要部に標示される行動 RS について
	[PB-10] 山田 敏幸 日本語の「と」等位接続構造における投射の問題: 統語と意味のインターフェイス
	[PB-11] 笠井 源 日本語の文を先行詞とする「それ」の表層照応~項省略の観点から
	[PB-12] 前澤 大樹 Tough 構文主語の再構築と再統合
	[PB-13] Yosuke SATO ECM, raising-to-object, or none of the above? Petteward's (1998) challenge revisited
	[PB-14] 小野 瞳, 井原 駿 トートロジーにおける評価的意味と譲歩性
PC 会場 MK203 教室	[PC-1] 新沼 史和, Lina BAO, 牧 秀樹, 宮崎 順大, 漆原 朗子 属格項認可条件: 初期研究
	[PC-2] 山部 順治 オリア語の名詞句において格標識が名詞と一致を示す
	[PC-3] 長谷部 郁子 中間的な強さの否定極性項目の認可子としての「~ 損なう」
	[PC-4] 葉 晨傑 屈折と派生の間にある韓国語の副詞化接辞「-i」-分散形態論による分析-
	[PC-5] 松藤 薫子 身体部位の所有表現の形式の多様性とその表現の発達
	[PC-6] 野田 晏伎, 深江 由衣, 山田 絵美, 太田 真理 日本語関係節文の構造的曖昧性が統語的再解析に与える影響: 事象関連電位による検討
	[PC-7] 森田 早織, 大関 洋平 ブローカ・ウェルニッケ失語症話者のコーパスを用いた形容詞比較級の誤用分析
	[PC-8] 横林 美祝 「イタダク疑問文」の行為主体判定に可能態は関係しているか
	[PC-9] 大園 雄也 「くれる」「もらう」における相違-利益共有の観点から-
	[PC-10] (発表辞退)
	[PC-11] 森山 倭成 補文標識と等位構造
	[PC-12] 中村 ちどり 日本語従属節における時制計算と未来の制限について
	[PC-13] 岡田 大和 日本語のミラティブ標識「なんて」とその埋め込みについて
	[PC-14] 木村 一馬 "BE + 他動詞" 完了の外在化条件に関する理論的分析
	[PC-15] Kaito OZAWA Reconciling the fixed wide scope of <i>dake</i> 'only' and its association with focus

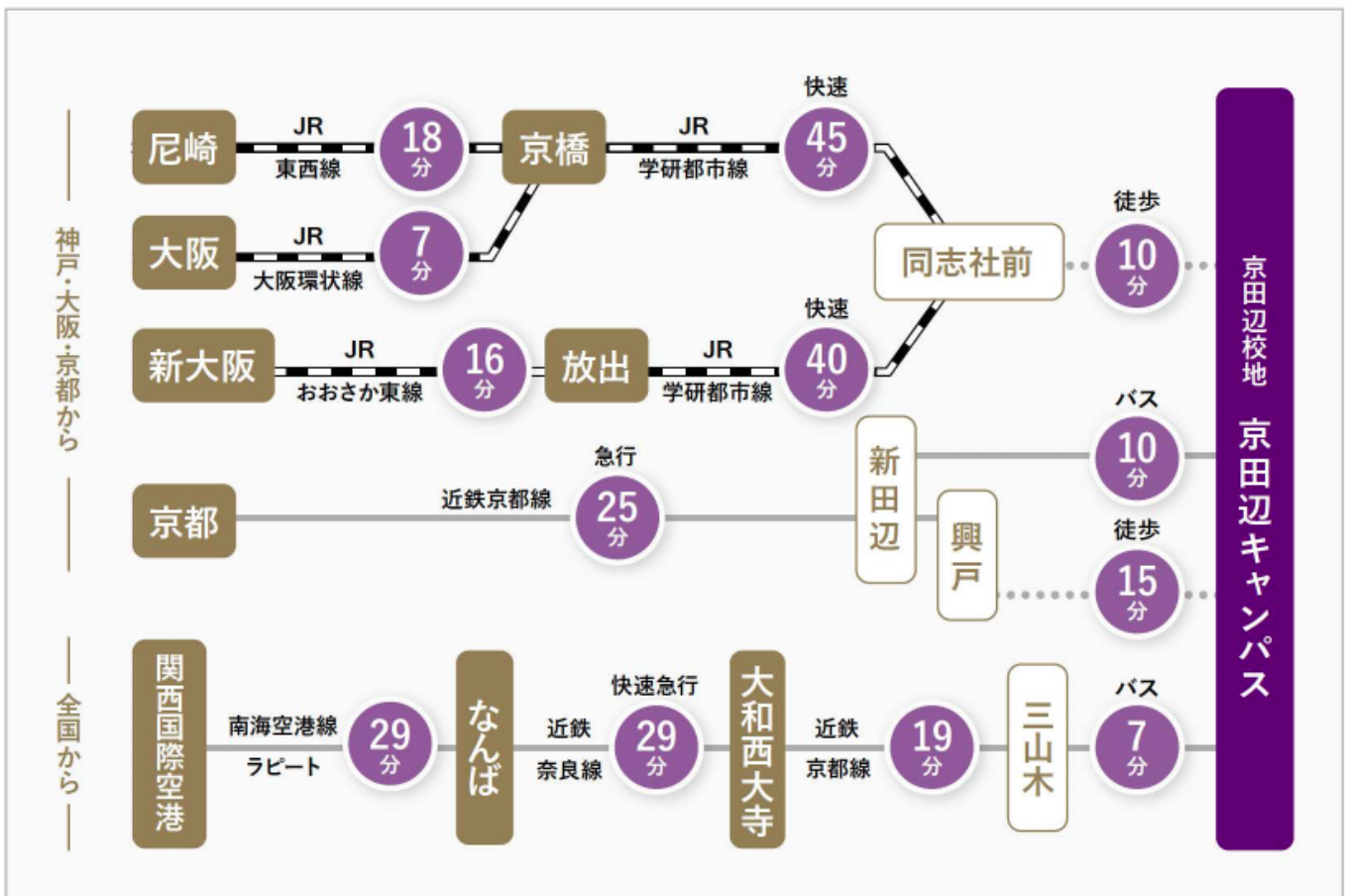
■ワークショップ（11月12日(日) 10:00-12:00)

A 会場 MK101 教室	[W-1] 統語・音韻部門におけるインターフェイス方略の性質について 企画者・司会：北田伸一
	[W-1-1] 統語・音韻インターフェイスの観点から見る連結要素「の」の分布 北田伸一
	[W-1-2] 統語・音韻インターフェイスにおける必異原理違反と抹消による回避：インドネシア語の <i>meN</i> -の分布を中心に 佐藤陽介
	[W-1-3] 統語・音韻インターフェイスの観点から見る時制要素 T の具現形：英語とイタリア語を例に 土橋善仁
B 会場 MK102 教室	[W-2] 条件表現形式の談話機能：九州方言を中心に 企画者・司会：有田節子
	[W-2-1] 談話資料から見る九州方言条件形式の分布 岩田美穂
	[W-2-2] 宇佐・中津方言のテカラの周辺 江口正
	[W-2-3] 長崎県葦路木島方言の「動詞中止形+助詞」による脱従属化の記述的研究 原田走一郎
	[W-2-4] 条件節の脱従属化：順接仮定条件表現形式「ギ」を中心に 有田節子
C 会場 MK301 教室	[W-3] 宮古・八重山諸島のアクセント研究の新展開：その韻律単位と類型 企画者：新田哲夫 司会：松倉昂平 コメンテーター：中澤光平
	[W-3-1] 南琉球の三型体系発見の持つ理論的意義 一特に韻律階層に焦点を当てて一 松森晶子
	[W-3-2] 南琉球宮古語池間方言における韻律的単位「韻律語」の特性 五十嵐陽介
	[W-3-3] 動的音韻解釈からみた南琉球宮古諸方言の三型アクセント体系 新田哲夫
	[W-3-4] 南琉球八重山語における三型アクセント体系のさらなる報告 セリック ケナン 麻生玲子
D 会場 MK302 教室	[W-4] 言語類型論の諸問題に対する帰納的アプローチ 『語学研究所論集』特集データを活用して一 企画者・司会：風間伸次郎 コメンテーター：山本恭裕
	[W-4-1] 自他交替とヴォイスの相関についての類型論的考察 岡本進
	[W-4-2] アスペクトと動詞連続に関する類型的考察 風間伸次郎
	[W-4-3] とりたてに関する類型論的考察 小林剛士
	[W-4-4] 連体修飾に関する類型論的考察 小林颯

◆会場配置図



◆路線図・キャンパス周辺図 (同志社大学提供)





◆奈良交通バス時刻表

通常のバス時刻表については [https://www.doshisha.ac.jp/information/campus/index.html#buss\\_timetable](https://www.doshisha.ac.jp/information/campus/index.html#buss_timetable) をご参照ください。「同志社大学正門」または「同志社北門」での降車が便利です。

なお、新田辺駅⇨同志社大学正門については、通常のダイヤに加え、以下の臨時直行便バスが運行しています。

11/11 (土)

○新田辺駅⇨同志社大学正門

11:35  
12:05  
12:35

○同志社大学正門⇨新田辺駅

17:10  
17:40

11/12 (日)

○新田辺駅⇨同志社大学正門

8:55  
9:25

○同志社大学正門⇨新田辺駅

16:10  
16:40  
17:10

## お知らせ

### ◆参加登録および受付

大会参加費はオンライン（Peatix）または大会受付にてお支払いください。参加費は、一般会員 2,000 円、学生会員 1,000 円、一般非会員 3,000 円、学生非会員 2,000 円です。オンラインでの後日配信をスムーズにご覧いただくためにもオンラインでの事前登録にご協力お願いします（要アカウント作成）。事前登録は、10月12日(木)から行います。

<https://lsj167.peatix.com>

### ◆予稿集

予稿集は大会の1週間前より学会ホームページから電子版予稿集（PDF ファイル）がダウンロードできるようになりますので、事前にダウンロードをお済ませください。紙媒体での予稿集頒布は行っておりません。

### ◆出張依頼状

所属機関長宛の出張依頼状をご入用の方は、返送先を明記して切手を貼った返信用封筒を同封の上、11月1日(水)（必着）までに学会事務支局までお申し込み下さい。

### ◆大会期間の昼食

日曜は大学内の食堂が営業しておりません。各自昼食をご準備下さい。

### ◆参加者交流会

12日のポスター発表終了後に同会場に参加者交流会を実施します。ソフトドリンクと簡単な茶菓子を提供します。無料でご参加いただけますのでふるってご参加下さい。

### ◆保育室の設置

保育室を設置します。保育室の利用を希望される方は、学会ホームページ「保育室の設置について」をお読みになった上で、10月11日(水)までに保育室担当宛([lsj.childcare@gmail.com](mailto:lsj.childcare@gmail.com))に御連絡下さい。

- ・利用可能時間：11月11日(土)12:45-18:15、11月12日(日)9:50-17:20
- ・料金：お子様1人あたり1時間につき500円

### ◆聴覚支援について

聴覚支援を必要とされる方は、10月11日(水)までに学会事務支局（[lsj@nacos.com](mailto:lsj@nacos.com)）にお申し出ください。

### ◆書籍展示

書籍展示は、2階ロビーで行う予定です。

### ◆資料展示コーナー

会員相互の情報交換のための資料展示スペースを用意します。会員に紹介したい学会、研究会、講演会のパンフレット等を置くことができますのでご利用下さい。（配布物は当日受付にご持参下さい。）

<p><b>安全な大会実施のためにも現地参加の方は各自の判断で必要な対策をお取りください。</b></p>
---



## 事務局からのお知らせ

日本言語学会では、2019年度より、言語学の研究・教育および学会運営にあたって依拠すべき倫理上の基本原則と理念を「日本言語学会倫理綱領」（以後「倫理綱領」）として定めました。制定に至った背景の1つに、2018年8月に開催された「夏期講座2018」で発生したハラスメント事件があります。学会として、このような事態を二度と起こしてはならないという強い決意のもと、倫理綱領制定のための部会で原案を作成し、常任委員会、そして評議員会で議論の上、制定した次第です。倫理綱領は研究大会を含む学会活動すべてに関わるものです。日本言語学会の会員であるかどうかに関わらず、倫理綱領を遵守していただくことが本大会参加の条件となることを認識いただいた上で、大会に参加いただきますよう、よろしくお願い致します。

倫理綱領の内容については、日本言語学会ウェブサイトを確認してください。

<http://www.ls-japan.org/modules/documents/rules/15.pdf>



### 次回大会予告（2024年春季大会：第168回大会）

場 所：国際基督教大学

日 程：2024年6月29日（土）・30日（日）

公開シンポジウム，口頭発表，ポスター発表，ワークショップ

研究発表募集：学会ホームページから発表申し込みができます。

- ・発表応募締め切り 2024年3月20日（水）（必着）
- ・採否通知 2024年4月中旬

### 問い合わせ先

日本言語学会事務支局 〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入

Tel. (075) 415-3661, Fax. (075) 415-3662, E-mail: lsj@nacos.com